

平成 30 年 8 月 21 日 市長定例記者会見 会見録

【司会】

はい、それではただいまから市長定例記者会見を開催いたします。
本日の話題は 3 件です。それでは、市長、よろしく申し上げます。

【市長】

はい。よろしく申し上げます。

ご存知のとおり、今年、今週も台風 19 号 20 号と、台風が日本に近づいております。

昨日、私、市の職員とともに、国の河川事務所の所長とお会いをし、現場で安倍川の、例えば、バックウォーターの問題であるとか、河口側の問題であるとか、いろいろ確認をさせていただいた上で、連携の体制についてチェックをしたわけであります。

市民の安心安全を守ると、どれだけゲリラ豪雨が来ても静岡市民の命を守るということで徹底して、情報の提供ということをし、迅速に、正確に、行っていきたくと思いますので、ぜひ報道機関の皆様も、ご協力お願い申し上げたいと思いますし、また粗相のないように私どもも、これ気をつけて、なるべく早く情報を、発信をいたしますので、よろしくお願いをいたします。

10 時半発表の最新情報によると、19 号はマリアナ諸島にある、ということですね。

むしろ 20 号の方が、静岡にとっては、気がかりではありますが、万全の体制で、災害対応していきたく思っております。

さて、それでは、今日の話題は三つです。

まず、一つ目。これが正式発表になりますが、市立小中学校の全ての普通教室に、エアコンを設置をすることにした、という発表であります。

前回や、前々回の記者会見の際にも、皆さんから、ご質問をいただきましたし、あるいは様々な場所で、多くの市民の皆さん、特にお子さんを持つ保護者の皆さんから、このことについて要望をいただきました。

これは大きな事業ですから、精査をした上で今日の正式発表になったということでありませぬ。

これも、お話しをしましたが、今年度の予算に静岡市でエアコン設置した場合、どういう手法があるかという調査は、6 月から行なっておりました。

事業手法や事業費、国からの情報提供等々と、より具体的な詳細調査を行ってきたところではありますが、それも踏まえて今回の静岡市の事業の概要を申し上げます。

三つあります。

一つ目は、来年度、平成 31 年度から、3 年間のうちに、全小中学校 125 校 1,824 ある普通教室にエアコンを設置をいたします。

また、設置の順番であります、専門家に聞きますと、小さなお子さんは体温調節機能というのがまだ弱いということで、また地表から近いところに体があるということですので、小学校から整備を進めていくことにいたしました。

二つ目は事業費です。

当初は、約総額 70 億と見込んでおりましたが、先ほど申し上げました、調査検討の結果、約 15 億円圧縮できることが判明しました。結果、約 55 億円のスケールで事業実施が可能と考えております。

三つ目は、おそらく国の補正予算でも、このことについての予算が計上されてますが、まだ詳細について、定かではありません。

しかし、国のメニューがどうであろうと、私どもは今年度の9月の補正予算案で市単で設計費等々の準備のための予算を上程をさせていただき、いわば助走期間を作っていて、国の制度が詳細になったら、それも活用して来年の4月からすぐに対応できるような、そんな準備をこの9月の補正予算で図っていききたいというふうに思っております。

その結果、来年の酷暑の時期の前に、一定程度の学校に、エアコンの設置完了を、スムーズにできるような、そんな準備のための、補正予算を、小学校分の工事の実設計費という名目で、計上することにしております。

これが三つ目で、以上が事業の概要であります、ひとつ私どもこれ教育委員会と環境局が議論をして、静岡型のエアコンの学校設置、これも教育活動の一環だということのソフト施策と、ここのところもこれから子ども達に伝えていきたいと思います。

というのは、一方でこの酷暑の原因というのは、御存じのとおり、気候変動、地球の温暖化、という地球的な課題に由来をしております。このままだとますます、厳しい環境になってしまふと。ただ、雲をつかむような大きな話ですので、小学校、中学校の時から、しかしながら、これをグローバルの問題として意識をしてもらい、つまり気候変動なんとか止めていく、地球温暖化なんとか防止をしていく、それは、静岡市が今、3次総、てこにしているSDGs17の目標にも直結をする問題でありますので、このエアコン設置をSDGsの気候温暖化防止、気候変動、それを意識する教材として、環境教育の一環として、静岡市は使っていきたい。ですから、自宅のエアコンはキンキンに冷やすということも時には許されるでしょうけれども、静岡市の教室内のエアコンは、適正温度で、たとえば28度で、27度でということの中で、自分がエアコンをあたるということは、心地いいけども、これはCO2の排出にもつながるんだということのバランスの中で、このエアコンを、例えば、学校給食が美味しいだけではなくて、栄養を考える食育活動になると同じ様に、このことも単に涼しさをもたらすというだけではない環境教育の教材、SDGsの理解に繋げていきたい。ここを静岡型として、今後教育の現場に打ち出していきたいということを申し添えさせていただきます。むすびに、今後、全国的にエアコン設置工事が始まることが予想されますが、市内の事業者の皆さんには、市内小中学校への円滑なエアコン設置に向け、ぜひ、協力をお願いいたします。以上です。

二つ目は、3次総5大構想の1つが、健康長寿のまちの推進です。具体的には、健康寿命世界一の都市をつくるということでもあります。健康寿命を75歳にまで延伸したいと。それは、今健康寿命ナンバー1の浜松市を抜いて、世界レベルの健康長寿のまちになるという目標がありますが、その健康寿命を延ばす意味で、1番大事なのは、自分の歯で食べたいものを食することが出来るということでもあります。

歯科医師会が長年取り組んでおります8020（ハチマルニーマル）運動、80歳の時に20本歯を残すという運動。これにどう近づけていくかということで、所管の課がいろいろ専門家の知見もいただいて検討をして、これ静岡市独自の制度でありますけれども、80歳の半分、満40歳になった時から40年後、20本歯を残さなければ、健康寿命を保てないという意識をつくってもらうために、啓発をするために、40歳になったら「歯医者に行こう」という呼びかけをするということ、手元に配付資料もあろうかと思いますが、下のところに大きく、今年度中に40歳を迎える方は、「歯ピカ検診」の受診券が送付されますよということ、すでに今年も満40歳の方に送っております。

満40歳の時に歯が、ご高齢になって抜ける最大の原因である歯周病の防止のための定期健診を無料で、40歳の時はですよ、40歳の時は無料で行うという受診券を送付しております。さらに、やっぱり40歳になると、どうしても中年になって、特に男性の場合は、オジサン化していくわけですけども、そういう中でピシッと身だしなみを綺麗にするために歯を白くといいますか、クリーニングをする。このサービスも300円で付加しますよと。

従来は、もう少し高額なんですけれども300円と。つまり歯周病というね、大変な病気をちゃんとチェックをして、その上で歯をクリーニングもしてもらえるとという40歳の誕生日を迎える年には、静岡市民には、全員このサービスを提供しますよという呼びかけをしております。

ただ問題は、40歳って働き盛りで歯医者さん行ってる暇がないってことです。なので、僕たちはとにかく必死にPR活動をしているんですけども、実は昨年度からこの事業をはじめたんですけども、結局、満40歳になる方に全員に市民に去年も送ったんですが、結局それをもって無料の歯周病検診とクリーニングサービスを受けてくれたのは、満40歳人口の5%程度で、終わってしまったんですね。それを何とか2年目の今年は、10%まで行きたいと。そのためには、ぜひ報道の皆さんにもお願いをして、このPRについてご協力をいただきたいということで、この8月、この時期にあえて、このテコ入れのために市長の記者会見の話題にさせていただいたという経緯であります。

40歳以降は、41でも2でも無料ではないんですけども、ここに書いてあるように、個別検診は600円、集団検診はたったの500円で受診できますけども、どうぞ満40歳になったら「歯医者に行こう」ということ、これ歯科医師会と市と官民連携をしながら、これから強力にPRしていきたいと思っておりますので、どうぞ取材方をよろしくお願いたします。

「歯周病検診」を受けるということは、疾病の発見だけではなく、歯と口に対する関心を高め、市民一人ひとりの予防への取組に繋がるもので、静岡市の目指す“健康長寿世界一”へ

の第一歩となるものであります。

是非、多くの皆様が、40代のうちから、かかりつけの歯科者さんを持って、定期的な受診のきっかけになっていただくことを期待します。以上です。

【市長】

三つ目。これも防災対策でありますけども、平成30年度静岡市・静岡県総合防災訓練を実施をしますという発表であります。来月2日、日曜日、駿河区の中島浄化センターをメイン会場に、市内各地で静岡市・静岡県総合防災訓練を実施いたします。本市での総合防災訓練の実施は、平成20年度以来実に10年ぶりとなります。先月西日本では豪雨により甚大な被害が発生し、地震のみならず、自然災害に対する防災・減災対策の重要性を改めて感じました。いかなる災害に対しても命を守ることを最優先として可能な限り被害を軽減するために、すべての主体が協力・連携して災害に備え、立ち向かうことが重要です。今回の訓練のテーマは、「災害に強く安心安全に暮らせるまちにしよう。自助共助公助による災害対応力の強化」と掲げました。そのテーマのもと、三つの重点項目を設定しています。

重点項目の一つ目は広域連携による受援訓練であります。昨日、冒頭申し上げましたとおり、河川事務所の所長と連携の体制をチェックしたのもこれにあたるんですけども、災害が起こると、どうしても行政機関同士であっても、齟齬が生じたりするので、それを円滑に国や県の情報を市がキャッチして市民の皆さんに伝えるという、この受援ということが大事であります。災害対応は国や県との連携が重要で2016年の熊本地震の際にはどこの避難所が何をどれだけ必要としているのかといった情報の整理や仕分けが混乱の中で錯綜するという事案が見受けられました。そこで、物資の受け入れ態勢も問題となりました。

国などから、まず当初はプッシュ型としてどんどん被災地に救援物資が送られるわけがありますけれども、その救援物資を効率よく避難所まで、必要な場所にまで速やかに搬送する物資輸送訓練などをトラック協会や倉庫協会の皆様方、民間団体の協力を得て首都圏が共同で実施をすることによって連携を、ここでも点検をしていきたいと思っています。また、メインの会場である中島浄化センターでは自衛隊や県警、市消防局の三者による救出救助訓練も行います。

二つ目は官民連携による共同訓練です。これも西日本の際もそうでしたが、被災地には多くのボランティアの方が駆けつけてくれます。このボランティアの皆さんの派遣先を適時的確に振り分けができるように、市社会福祉協議会や災害ボランティアコーディネーター団体と災害ボランティア本部運営訓練を行います。また、医師会、歯科医師会や県警と遺体措置訓練も行います。

そして三つ目は、オクシズからしずまえまでの静岡市は中山間地域から駿河湾沿岸地域までを要しておりますので、この地域の特性に応じた訓練ということでもあります。山間地の多い葵区では、道路が分断され孤立集落の発生が懸念されます。そこで、どのように医師の派遣や患者の搬送救援物資などを孤立した山間地域に届けていくのかという、孤立集落対策

訓練を行います。

一方、清水区では会場の津波漂流者の救出救助訓練や津波避難訓練が、海拔が低い地域特有の訓練を行います。さらに、駿河区の中島地区では学校と地域が一体となって防災に強いまちづくりに力を入れているということで、大変有名な地区であります。中島中学校において、小中学校生も参加をした上で、今回も女性に配慮し、ご高齢の方や障がい者が対応した避難所の運営や、実際に宿泊して避難所で過ごす訓練、中島浄化センターでは、地元自主防災会と応急救護や初期消火などの訓練を総合的に行う予定であります。今回の総合防災訓練を通じて静岡市が進めてきた災害対策を検証すると共に、県などの公共機関や民間の関係機関とのさらなる連携を図ってまいりたいと考えております。

また、市民の皆さんにも改めて災害時には公助のみならず自助と共助の精神も大事でありますので、逃げ遅れることが決してないように、自らのこととして一人でも多く、まずは9月2日のこの訓練に参加して頂けるよう呼びかけをいたします。以上です。

【司会】

それではただいまの発表項目につきまして、ご質問がある方はお願いしたいと思いますがご質問の際は社名とお名前をおっしゃってからお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

はい、朝日新聞さんどうぞ。

【朝日新聞】

よろしくお願ひいたします。まず一点目について伺いたいですけれども、エアコンなんですけれども。こちら例えば、どういった、どれくらいの価格の機種をひと教室あたり考えていらっしゃるかとかですね、運用していくための電気代などっていうのはどれくらいを見込んでいらっしゃるか、っていうのをお手元にあればお願いします。

【市長】

実務的には後ほど担当者から答えますけれども、6月から調査をする中でその辺りの検討も進めております。さいわい、静岡市内には世界的など言いますか、日本有数のエアコン製造メーカーである三菱電機と旧日立、ジョンソン社がありますので、そういった現場の方々のご意見も聞きつつ小中学校には、どの型の、どのスペックを持ったエアコンが最適なのかということについてアドバイスももらっております。

そんな中で費用対効果の高い機種をこれから選んでいきたいというふうに思っております。補足がもしあれば、ぜひよろしくお願ひをいたします。

はい、教育委員会。

【教育局次長】

実際にですね、エアコンを一教室だいたい 300 万円程度かかる予定です。馬力的にはですね、6馬力程度のエアコンの設置を予定しております。

あとですね、ランニングコストなんですけども、夏とですね、冬、冬の方もですね、エアコンを使用したといたしまして、およそですね、電気代は全体でですね、8,000 万円程度かかる予定と見込んでおります。以上です。

【朝日新聞】

そうしますと、冬場も暖房として使うという認識でよろしいのでしょうか。

【教育局次長】

はい、必要に応じてという形で考えております。

【朝日新聞】

既存のストーブ等との兼ね合いってというのは、どういうふうにお考えでしょうか。

【教育局次長】

まだですね、具体的なですね、使い方等はですね、今後検討をしていきますけども、ストーブとの併用等も考えたいと思います。

【朝日新聞】

ありがとうございます。

【司会】

よろしいですか。

【朝日新聞】

他の話題でも大丈夫ですか。防災訓練について。

【司会】

はい。どうぞ。

【朝日新聞】

防災訓練について伺いたいんですが、総合防災訓練、10 年ぶりということなんですけれども、これは、10 年おきにやっているということなんでしょうか。それとも、何か理由があって今回やることにしたんでしょうか。

【市長】

県内の各地域持ち回りですね。

その中で、だいたい10年に1回くらい静岡市は受けているのかな、そんなことだろうというふうに思います。その前はどのくらいだったのかな。だいたいそんなもんだな、県内各地域でね。持ち回りでね。

【朝日新聞】

参加団体のところに、在日米軍が入っていますけれども、今回はどういう役割を果たすのでしょうか。

【市長】

自衛隊との協力関係を点検するということが主な業務になろうかと思えますけれども、これも一つの試みでありますのでね、またスムーズかどうかという点検をしていきたいと思えます。

【朝日新聞】

具体的にどの部隊かというのは、まだ？

【市長】

聞いている範囲、自衛隊出身者がいらっしやった。わかる範囲でぜひ答えてください。

【危機管理総室長】

今考えておりますのは、キャンプ富士ですね、静岡県にあります海兵隊の部隊というふうに認識しております。細部調整は県を通じてやっているというような状況です。

【朝日新聞】

わかりました。ありがとうございました。

【NHK】

来年の夏までに、ある程度、エアコンの話なんですけど、できればということなんですけど、さきほどもおっしゃったように、できれば小さい子、小学校の低学年の子からつけていく、設置していきたいということなんですけど、来年の夏には、低学年のクラス全部に設置したりとか、何か方向性みたいなどころでは、具体的なものはありますでしょうか。

【市長】

これ、もう少し大きな枠組みで答えさせてもらおうとね、今回、125校ありますので、これを

決断することは、一気にやらなきゃいけないということで、グーッと今までの計画を圧縮して3年間でやってしまうと。まあ、ひとつの区切りですのでね、3年間で全部完了してもらおうという財政フレームを作るのが大変だったんですね。

で、なぜそうしなきゃいけないかっていうと、やっぱり学校によって、うちはまだ設置されていないという学校間のね、不満になってしまうとこれはまずいだらうと。小さな自治体でね、10校以下のところはやってしまうんでしょうけど、うちのようなところはなかなかそこまでいかないということで、3年以内っていう圧縮期間でやると。

そういう中で、さらに、じゃあどこからやるかという、やっぱりそれなりのきちっとした理由がなければいけないという時に、先ほど、私が申し上げたような理由になってきたわけですね。

あの、教育委員会、そのところはね、とにかく目配りをしながら、これからどの学校を整備するのかということを決めていくことになろうかと思しますので、その教育委員会の現場の判断に任せようと思っておりますけども。

ただ、多くの子どもたちにね、なるべく来年夏は快適な教室を過ごしてもらいたいなという気持ちは持っております。

【NHK】

多くの子もっていうと、やっぱりその低学年が中心になるのか、それとも例えば学校ごとに選んでいくのか。

【市長】

ちょっとこの辺は、所管の責任者に答えてもらおう。

【教育局理事】

まず設置のやり方なんですけれども、さっき、市長の方から少しご説明さしあげたとおり、できるだけ工法費を圧縮するということに考えますと、また一般的な効率性であるとか、また作業していただける方々の効率性みたいなことも考えますと、学校単位でやっていくことを想定しています。

でありますので、お尋ねの1年生とか2年生の教室という形よりは、ある学校が完了するっていうふうにどんどん進めていくことになるのかなというふうに考えていただければなと思っております。

で、その進め方ですけれども、具体的にどの学校に配置するかっていうところまでは、現状決定しておりませんで、今後は、今、市長がお話しいただきましたような、できるだけ多くのお子さんに、早めに提供できるような形の順序をやっていくという形で、ちょっと具体的な検討に入ろうかと思っているような段階であります。以上であります。

【司会】

よろしいですか。

はい、他にいかがでしょうか。はい、SUT（テレビ静岡）さん、どうぞ。

【テレビ静岡】

関連で、確認も含めてなんですけれども、国の方では、来年の夏までに、全校、全小中学校のエアコン設置を目指すという方針で、何かこの秋に向けて予算の設定を検討中ということでしたけれども、静岡市の方でも、国の予算が何とかなれば、財政的になんとかなるというところで、できるだけ早く、来年の夏までに全校前倒しでやって、全校設置も考えられるという認識でよろしいのでしょうか。

【市長】

おっしゃるとおりですね。それを見定めていたんですけれども、今回メニューの詳細が揃う前に決断をしたということですけども、少し補足を理事からお願いします。

【教育局理事】

お尋ねに関しまして、まず国の方の補正予算に関して、現時点で正式にこちらの方にご連絡が来ていないためにですね、どこまでフィジビリティのあるお話なのか、ということは担当として承知していない部分がございます。

その上でのお答えになりますけれども、予算として国が確保できた場合に必ず100%、来年度の夏までにできるかという、かなり技術的に困難な部分も起きうる余地はあるかなと思っております。

と申しますのは、全国的に作業が始まりますと、職人さんの数には限りがございますので、その部分での限界ということも見極める必要があるかなと思っております、財政的な条件が全て整った段階でこういった形でできるかは、もう少し具体的な検討が必要な部分が残るかなと思っております。

【司会】

はい、どうでしょうか。よろしいですか。

はい、ありがとうございました。

今日は、幹事社質問はないということですので、フリーの質問に入りたいと思います。

いかがでしょうか。

【朝日新聞】

すみません、先ほどの聞きそびれなんですけれども、55億円のエアコンに関する予算、3年間でやるってということで、財源ってどういうやり方ってのを考えてらっしゃいます

でしょうか。会計の仕組みとかですね。

【市長】

まだ、試算の段階ですのでね。大卒、財政局長から答えていただこうかな。

【財政局長】

現時点で、試算ということですがけれども、整備事業費としては55億円ということでお伝えさせていただいておりますけれども、国庫補助金がですね、約9億円を想定しております。ただ、国庫補助金の見通しについては、先ほど教育委員会からお答えさせていただいたとおり、ちょっとまだ現時点で不透明ですので、ここの補助金の国の方での措置ですとか、それを静岡市にもしっかり配分していただくというようなことが、今後必要になってくるかなと思っております。

それ以外は、今、一般財源とか借金ですね、起債を予定しておりますけれども、ここは今後、今、申し上げたところをしっかりと見極めながら、できるだけ国庫補助金を活用していきたいというふうに考えています。以上です。

【朝日新聞】

この取り組みに使える基金とかっていうのは、あつたりするのでしょうか。

【財政局長】

この取り組みのための基金は、今ちょっと持っておりませんが、あの全体の予算の中でですね、基金も活用しながら全体の財政を運用していく中で、このエアコンに対する一般財源も賄っていきたいというふうには考えております。以上です。

【朝日新聞】

そうすると、選択と集中という意味では、どっかから持ってくる必要があるかと思うんですが、そうしますとたぶんトータルの話になるかと思うんですが、市長としては、この事業を優先するためにこのある程度削らざるを得ない部分っていうのはどのあたりだと考えてらっしゃいますか。

【市長】

おっしゃるとおりですね。

【朝日新聞】

一般会計の2%ぐらいに多分なるんじゃないかなと、今、計算してみたらなるんですけれども。

【市長】

概ね、おっしゃるとおりだと思います。55 億に圧縮できたとはいえ、かなりの一般会計への繰り出しが必要となります。3年で平準化したとしても20億内がかかるわけですね。それまでの3次総の財政フレームワーク枠、5大構想、それぞれの遣い道が決まっていたので、その組み換えをするという作業をした上での今回の発表でありますので、随分、財政局の職員にはね、このことについて、暑い夏、仕事していただいたというふうには思っております。

しかしながら、これ、優先事項ということでもありますよね。ある程度、事業の取捨選択、優先順位の確認ということの作業が必須であって、今日の発表になったというご理解をお願いします。

【司会】

いかがでしょうか。よろしいですか。

はい、中日（新聞）さん、どうぞ。

【中日新聞】

障がい者の職員の水増しというのが、全国的に、愛媛と、どこだっけ、山口でしょうか、あれ違うな、あったと思うんですけど、昨日、市の人事に確認したら、「うちはない」ということだったんですけども、今後、調査とかしていく、ルールを間違えて誤って運用してしまって、今回のそういう水増しということが起きているところもあると思うので、そこら辺の改めて法定雇用率の調査というのを市としてしていくのか。

【市長】

お尋ねの件について、私の所にまだ調査をやるという報告は入っていません。ちょっと原課の方に確認をしていただきたいと思いますと思いますが、共生ということをすごく私たち大事に取り組んでおります。30年度から引き上げられたんですね。雇用率が2.3%から2.5%になりました。ここに追いついていくっていうのは、大変な取り組みであります。ちなみに、もう承知しているかもしれませんが、静岡市は、29年度までの2.3%という水準については、市長部局2.36%、上下水道局2.29%、教育委員会2.18%と、概ねその水準に近づいておりますが、水準が2.5に30年度からなってしまったので、そこに向けてまた努力をしていなければいけないということでもあります。

はい、総務局長。

【総務局長】

静岡市の場合ですけれども、30年度から障害者雇用率の算定時におきまして、障害者手帳

を保有している職員からは、障害者手帳の写しを取っておりますので、調査を行う考えは、今のところございません。

【司会】

その他、いかがでございましょう。よろしいですか。

【市長】

そしたらですね。歯ピカ検診について、質問が欲しかったところでもありますけれども、私として今日、一番皆さんに、健康づくり推進課、健づく課と言っていますけれども、ここが所管で、一生懸命これから PR を課長はじめしております。今日、来てますか、健康づくり推進課長。是非ね、これ現場に行って、今、一所懸命普及をしておりますのでね、取材をしていただきたいな、とお願いします。これを実はあの販促のためにね、啓発キャンペーンのために配っているんです。お手元に一つずつお分けをしておりますので、ぜひご協力をよろしくお願いします。課長、一言。

【健康づくり推進課長】

今日、皆様のお手元にお配りしてあるのは、歯ピカ検診に関するパンフレットとですね、グロスとか、いろんなものがあるんですけれども、本当、働く方がですね、歯についての健康を是非知って頂いて、かりつけ歯科医を持っていただいて、まず皆さん自らの健康のために、歯の大切さっていうのを是非皆さんのお力を借りて、認識をお願いしたいと思います。よろしくお願ひいたします。

【市長】

皆さんね、まだ 20 代 30 代ですので、そんな意識がないかもしれませんが、40 代以上の記者の方も若干いらっしゃいますね。是非、ほんとにこれ PR が命ですので、是非ご協力をよろしくお願ひしたいなと思います。

【司会】

はい、そういうことですので、歯ピカ検診ですね、是非 PR をよろしくお願ひしたいと思います。

では、以上で本日の定例記者会見を終了させていただきます。次回、9 月 3 日、月曜日の午前 11 時からとなりますのでよろしくお願ひいたします。本日はありがとうございました。